

リニア中央新幹線建設の環境影響における ゼロリスクの考え方について

2020年10月7日

静岡県

工事中のトンネル湧水の流出におけるゼロリスク①

①発生現象推定におけるリスク

トンネル湧水量の推定	<p><JR東海> 上向き勾配で掘らなければ、突発湧水の発生によりトンネルが水没するおそれあり トンネル湧水量推定上のリスク大 ⇒安全上のリスク大</p>	<p><静岡県> 同左 + 大量のトンネル湧水の県外流出のおそれ ⇒環境影響(水利用、自然環境)のリスク大</p>
------------	---	---

②対処におけるリスク

	<p><JR東海> 工事中の一時、トンネル湧水を大井川に戻せないことがある ⇒「全量に戻せない」ことを前提に改善対策を考える</p>	<p><静岡県> どのくらいの量のトンネル湧水量が発生するのかを、まず明確にすべき ⇒「全量に戻す」ことを前提に対策を考えるべき(対策を考える前提として「全量に戻す」ことはゆずれない)</p>
--	--	--

③影響におけるリスク

	<p><JR東海> 水収支解析によれば、湧水を流域外に流出させても大井川の流量は減らない ゼロリスク</p>	<p><静岡県> トンネル湧水量の推定リスクがあるのに、なぜ大井川の流量減少はゼロリスクといえるのか、科学的根拠不明。論理矛盾</p>
--	---	---

<JR東海の見解> 突発湧水のおそれがあり、トンネル湧水量の推定にはリスクがあるが、大井川の流量減少は精度の高い水収支解析によればゼロリスク

工事中のトンネル湧水の流出におけるゼロリスク②

	JR東海	静岡県
① 県境付近のトンネル湧水量の推定	水収支解析の予測 ○m3/秒 リスク 推定値 + α (不明) リスク大	全量がいくらなのか不明 計画時 工事中 推定値 + α ? + β ? リスク大
② 対処方法	戻す 一部戻せない (一部戻せないは×) ↓ 大井川流量	全量戻す + β ? + β があることを認め、どう対処するかは別途協議 「+ β をあらかじめ明らかにし、それを必ず全量戻せる対策を考えるべき」という ゼロリスクは求めない
③ 大井川の流量への影響	一部戻せなくても水収支解析によれば大井川流量は減らない (ゼロリスク)	トンネル湧水の全体量の推定には解析してもリスクがあるといっているのに大井川の流量減少は解析により リスクがない(ゼロリスク)といえる論理がわからない 2

県境付近のトンネル工事による大井川流量への影響についての静岡県とJR東海の見解の相異

< JR東海 >	< 静岡県 >
○突発湧水の恐れがあり、トンネル湧水量の推定上の不確実性は高い。大量出水によるトンネル水没のリスクを避けるため、上向きに掘るしかない。 不確実性大・リスク大	○トンネル湧水量推定上の根拠の 不確実性大 トンネル湧水量の不確実性大・リスク大
○トンネル湧水が一時県外流出しても水収支解析によれば、大井川の流量は減らない。 不確実性なし ゼロリスク	○トンネル湧水が大井川水系外に流出すれば大井川水系の水の総量は減る。水資源に何らかの影響はでる。 ゼロリスクということはない ゼロリスクと主張する根拠がわからない
○影響はゼロリスクなので工事を進めたい。 工事の影響はゼロリスク	○大井川流域の総量を減らさないことを前提に対策を考えて欲しい。湧水量を確定的に求めるというゼロリスクは求めない。 影響のゼロリスク論は論理矛盾